

第26回  
FDフォーラム  
報告集

第7分科会

# モチベーションクライシスと向き合う

## 報告者

永野 典詞 氏 九州ルーテル学院大学 人文学部 教授

眞砂 照美 氏 佛教大学 社会福祉学部 教授

小原 教孝 氏 学校法人平成医療学園 常任理事(大学担当理事) /  
宝塚医療大学 統括長・保健医療学部 教授

## コーディネーター

三好 明夫 氏 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授

P 1～ 趣旨説明 三好 明夫 氏 資料

P 7～ 報告1. 眞砂 照美 氏 資料

P23～ 報告2. 永野 典詞 氏 資料

P30～ 報告3. 小原 教孝 氏 資料

# 第7分科会 モチベーションクライシスと向き合う

2020年度 第26回FDフォーラム  
2月27日14:00～報告



コーディネーター 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 三好明夫

## 第7分科会報告者のご紹介

(2014年度第20回FDフォーラム第14分科会の継続として企画)

●第一報告者は、佛教大学の教授真砂照美先生で、「初年次からの体験的学びと体験の言語化ー学習意欲を引き出すためにー」として報告をいただく。

●第二報告者は、九州ルーテル学院大学教授永野典詞先生で、「ソーシャルワーク理論と技術を用いた学生支援・教育指導の葛藤-教職員の共通理解の重要性と困難性-」として報告をいただく。

●第三報告者は学校法人平成医療学園常任理事(大学担当理事)であり宝塚医療大学教授小原教孝先生から現場教員の支援についてのみではなく大学運営サイドからの提起や課題についても報告をいただく。

# モチベーションクライシス＝大学生の学習に対する意識の危機的な低下に向き合う

- 近年は入学後にすぐに登校しないケースや途中の学年で退学していく学生も少なくない。
- 学生たちの大学入学動機とともに大学で学ぶことの意欲低下についての検証が必要である。
- 多くの大学ではこれら学生への抱える悩みや不安などに対応するためにさまざまな支援策が実施されていると思われるが、その策がどこまで効果を発揮しているのか、あるいは課題を残しているのか。
- 効果につながっているとすれば具体的な取り組みの工夫について共有することが必要であり、課題があるとすれば課題解決に必要な方策はどのようなものが考えられるのかということを多くの大学が事例を検討しながら確かめ合う必要がある。

## 考えられる支援策1

- 例えば、学生相談に対する取り組みと課題、修学支援としての取り組みと課題、学習支援のための取り組みと課題、ピアサポートによる取り組みと課題などが考えられるが、モチベーションクライシスに向き合い、学生たちを支援していく場合には、学生の保護者や関係機関団体との連携も必要であろう。
- 今回は、大学全体(教職員の連携)としての取り組みの必要、教員間での連携と協働で行う連携支援の必要についても考えていく。
- 例えば、初年度教育の充実として担任制度やそれに基づく基礎ゼミナールの編成、カリキュラム(学生たちの自主的な学修の学びも含めたもの)改革や再編成、それによるカリキュラムマップの作成や共通教育科目の充実も必要であろう。

## 考えられる支援策2

- 大学教育においては、学生たちの目標とすべき人材像を明示し、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成および実施の方針(カリキュラムポリシー)を定めている。
- さらにこれらの方針のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるために、全学および各学科において入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)を設定している。
- 学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)も重要であろう。学生の学びの充実のために、大学間連携、地域連携・地域貢献、産学協働などのプログラムも用意されているはずである。

## モチベーションクライシス

- こうした対応だけでモチベーションクライシス、あえて表現すると「不本意入学」となった学生を支援することが可能なのだろうか。
- またダイバーシティの推進において入学する様々な状況の学生を守ることが可能なのだろうか。
- どのようにして「やる気」や「その気」「本気」また「元気」、を回復させて、学ぶことに意欲を持ち、さらには退学傾向に向かわないよう支援していくことができるのだろうか。

## 中央教育審議会の平成29(2017)年3月に「我が国の高等教育に関する将来構想について」

- 「高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が、何を学び、身に付けることができるのかを明確にし、**学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること**。このための多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていくこと」とされている。
- さらに、「**多様な価値観が集まるキャンパス**」となるためには、「**多様な学生**」を受け入れることのできる体制を整備するとともに、学部・学科を越え、大学を越えた人的資源の共有を通して、「**多様な教員**」による**多様な教育研究**を展開することが必要である。
- こうした「**多様な価値観が集まるキャンパス**」において、個々人の特性を伸ばし、文系・理系の区別にとらわれず、**新たなリテラシーにも対応した「多様で柔軟な教育プログラム」を提供することができるよう、迅速かつ柔軟なプログラム編成を可能とすることも含め、既存の制度の見直しを行うことも必要である。これらに加えて、「多様性を受け止める柔軟なガバナンス等」の在り方を検討していくことが必要である。**

### 2014年度第14分科会モチベーションクライシスのある報告から

- 「**発達障害学生に特化した学外クラブ活動&インターンシップ実践**」・・・**この報告に参加者の関心の高さがあった**

#### 現在・・・

##### □学生の心身状態の多様化が拡大

精神障害、知的障害、発達障害、(LGBTQ)・・・

##### □学生の不安増大

人間関係(対親、対友人、対教員、対部活サークル、対バイトなど、学業成績、資格取得、卒業後の進路 ……など悩むこと、不安になることは少なくない

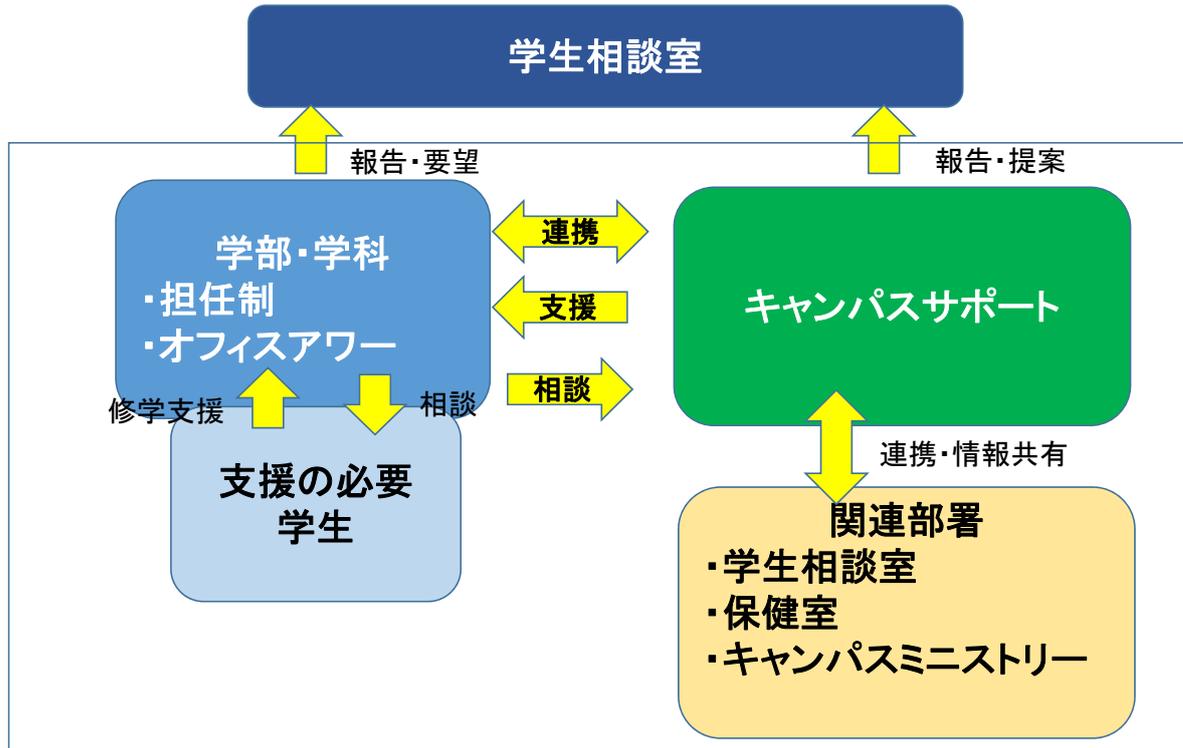
##### □学生からのSOSの発信、教職員の受信のタイミング

もう少し早ければ、こういう結果にならなかった・・・



本学における学生支援の概要について簡単に紹介

# 京都ノートルダム女子大学の支援体制



## 支援体系の項目、概要

1. **学生サポート** 新入生対象のフレッシュマンセミナー開催、先輩からのサポート
2. **個別支援** 担任制、1,2年の基礎ゼミから3,4年の専門ゼミ
3. **教員による相談タイム** 原則オフィスアワープラスで多くの教員が関与
4. **特別な支援のサポート** キャンパスサポートチーム、学生部、学生委員会
5. **心身両面からのサポート** 公認心理士3名+保健室看護師2名で●勉学、家族関係、友人関係、恋愛関係、自身のパーソナリティ、アルバイト、部活サークル、将来への不安等、あらゆるジャンルに対応  
●プライバシーへの十分な配慮
6. **仲間づくりの支援** キャンパスミニストリー、シスターズラウンジ、地域のボランティア活動
7. **学生の主体的活動** 課外活動、授業外活動、学生行事の充実、部活サークルへの誘い掛けとフォロー
8. **心に不安を抱える学生支援** 学生相談室主催の研修会実施、年2回全教職員対象、・教職員の心理的支援のさらなる質の向上、・学生相談室構成員間での情報共有および課題の整理、・学生相談室活動のさらなる向上を目指す連携

ご視聴いただいた皆様,ご登壇いただいた報告者の方々  
FDフォーラム事務局の皆様にご挨拶いたします



[amiyoshi@notredame.ac.jp](mailto:amiyoshi@notredame.ac.jp)

第26回FDフォーラム2021年2月27日コンソーシアム京都にて

Human relations Seminal

SOCIAL WORK LAB SPECIAL TEAM

AKIO MIYOSHI  
NPO Try-Angles

Welfare Education Certificate Social Worker



2020年度 第26回 FDフォーラム  
第7分科会  
モチベーションクライシスと向き合う

初年次からの体験的学びと  
体験の言語化  
—学習意欲を引き出すために—

2021年2月27日(土) 14:00~17:00

佛教大学 社会福祉学部 眞砂照美

イラスト:いらすとや

<https://www.irasutoya.com/>



## はじめに

前回 2015年「モチベーションクライシスと向き合う」

盲先覚者の学びと支援の事例、非言語素材の音訳化の実験例を参考に、

実物に触れ合いながら五感を活用し学びあう参加型授業やIPE専門職連携教育の事例等を挙げ、「**学びあう主体—五感力を活用した分かる授業の提案**」を行った



### 【今回の報告】

初年次からの体験的学びと体験の言語化  
—学習意欲を引き出すために—

1. 大学1年生の学習意欲の状況—先行研究の知見から
2. 大学における体験的な学びとは何か
3. 佛教大学での体験型学習「地域福祉フィールドワーク」の活動例
4. A大学における体験型学習から
5. With コロナ時代の体験型学習について
6. まとめと課題

## 1. 大学1年生の学習意欲の状況 —先行研究の知見から—

- 大学の教員や講義内容に対するリアリティショックが、授業意欲と学習意欲の低下と関連する(半澤 2007a)。
- 学習意欲が高い学業志向的な進学動機をもつ学生であっても「講義内容不満」や「履修不自由度」といったリアリティショックを経験することで入学後学業不適合に陥る可能性が生じる(半澤 2007b)。
- 1年生では学習意欲の上昇・降下いずれも授業内容が大きな要因となっており、授業内容の理解の難しさが特徴的(尾崎・松島 2006; 半澤 2007a)である。

## 1. 大学1年生の学習意欲の状況—先行研究の知見から

表1 学習意欲の高低による群分け(尾崎・松島 2012) L=低い H=高い

前期	後期	度数	%
L	L	34	37.0
L	H	5	5.4
H	L	13	14.1
H	H	40	43.5
合計		92	100.0

### LL群

授業に対して、義務・退屈感を感じており、知的好奇心、自己成長、視野の広がりなどといった**ポジティブなイメージ**がもたれていない傾向

### HL群

前期に多数を占めていた授業重視が後期には低下し、後期では資格の取得の**選択率が増加する特徴**

## 1. 大学1年生の学習意欲の状況—先行研究の知見から

- 授業内容だけでなく、**大学観・大学満足度・大学生活における重視する活動等大学生活に関する要因も1年生の学習意欲を規定することを確認**(尾崎・松島2009;2012)。
- 授業に出席しつつも授業外学習や読書、遊びや対人的な活動にも多くの時間を費やす=**「よく遊び、よく学ぶ」活動性の高い学生の大学生活が最も充実、大学生活の中で自分の成長を実感**(溝上2009)。

## 1. 大学1年生の学習意欲の状況－先行研究の知見から

### • 自主学習時間と学習成果の結びつきについて

「自主的探究志向の強い学生は、授業をきっかけとして授業の予復習等とは別に、さらに広くあるいは深く学習を展開することで、幅広い知識や視野の獲得という汎用的成果（論理的に文章を書く力・人に分かりやすく話す力・物事を分析的、批判的に考える力・問題を見つけ、解決を考える力・幅広い知識、ものの見方）を高めていると考えられる」（谷村 2010）



## 2. 大学における 体験的な学びと は何か

<20世紀前半のアメリカの教育哲学者  
John Dewey>

- それまでの伝統的な学校教育の講義形式のアンチテーゼとしての体験的な学びの重要性を指摘
- 体験学習の意義や教育デザインを考える上で大きな影響を与えた
- シカゴ実験学校で、体験的な学びの重要性、経験と省察を通じた教育の重要性に光を当て、今日の体験学習の意義や教育デザインを考える上で大きな影響を与えた」と述べている。（村田 2018:7）

## 2. 大学における体験的な学びとは何か

- 「ボランティア活動を通じた学生の教育」も大学の使命となる
- 学生のボランティア活動は、現地や当事者へ貢献→「どうよきものであったのか」現地や当事者への経験と知識の貢献
- ボランティア活動を通じた「学生の教育」→「学生がどう変容したのか」という学生にとっての意味と意義
- 「現場体験の知と学術的な知をつなげる」ことが基本姿勢

(兵藤2019: i - ii)



### 3. 佛教大学 体験型学習 「地域福祉 フィールド ワーク」 活動例

- 佛教大学「地域福祉フィールドワーク」の活動 福祉教育開発センターの教育事業開発部門が担当し、学生が参加する。
- 学生自ら希望する活動を選んで参加するもので、授業化や単位化はされていない。

## 佛教大学「地域フィールドワーク」の6つの活動

小野郷へいこう！	井戸端サロンの企画・実施、配食活動を通じた一人暮らしの高齢者との交流・見守り活動
大宮へいこう！	地域防災活動、災害時要支援者支援活動を通じて災害ソーシャルワークについて学ぶ
紫野へいこう！	学生団体『むらさきっず』が紫野学区の一人暮らし高齢者を中心としたグループ『パープルフレンズ』を支援する活動
子ども支援	児童養護施設の子どもたちの学習支援活動
若者・ホームレス支援	ホームレスの人、生活困窮者の人の支援、子ども食堂の活動
ハンセン病問題を考えるフィールドワーク	ハンセン病問題を学び、ソーシャルワーク専門職の役割と使命を考えるアクティブ・ラーニングの活動

### 3. 佛教大学 体験型学習「地域福祉フィールドワーク」活動例

「地域福祉フィールドワーク」についての情報は、入学前のオープンキャンパス時における在学生からの案内、1年生を対象とした「地域福祉フィールドワーク」説明会での活動紹介を通して行われている。参加申し込みは説明会で配布された資料の中にあるQRコード等を利用して佛教大学の学習支援システム「B-net」で行う。また、部活やサークルの先輩を通して紹介されることもあり、学生が入学前や入学早期に「地域福祉フィールドワーク」の情報に触れる機会となっている。



<https://www.bukkyo-u.ac.jp/news/faculty/social/20190904-21388.html>

### 3. 佛教大学 体験型学習「地域福祉フィールドワーク」活動例

「小野郷へいこう!」の活動を取り上げ、体験型学習の魅力と学習への効果について、学生と教員へのインタビューの分析の一部を紹介する。

田舎への憧憬

上下関係フリー

事情にコミットする

ちょうどいい支援

わちゃわちゃ

授業が腑に落ちる

人生の語り部  
「俺、昔なあ…」

ハイブリッドな活動

### 3. 佛教大学 体験型学習「地域福祉フィールドワーク」活動例

一活動のクオリティ確保

大学生活との調整可

行きたくなる

しんどくなったら、小野郷行けるんちゃう？

みんなが支えあっている

循環している

卒業生LINEでも繋がりあえる

あえて単位化しない

## 4. A大学 体験型学習 「地域がキャンパス」 活動例

### 「地域がキャンパス」\*

- 福祉学部 3年生の専門演習 (前期・後期 90分×2コマ) を中心に活動を展開。
- 単独又は複数のゼミで実施。
- 学生が大学の周辺のみならず島嶼部や山間部等の地域に出かけていき、地域の方々と一緒に活動を行う。

\*現在は行われていない。

## 4. A大学 体験型学習「地域がキャンパス」活動例

- 2018年度真砂ゼミの活動:「丸〇サロン」における<たけのご掘り・お花見会><田植え会><ほたる祭り><餅つき>等、「放課後児童クラブ」における<凧づくり>
- 2018年7月6日の西日本豪雨災害によって大学とその周辺他県内各地で甚大な被害を受けたため、一部の活動の中止や延期を余儀なくされた。その間、大学や地域の災害ボランティアとして活動していた学生たちも多かった。



## 4. A大学 体験型学習「地域がキャンパス」活動例

2018年度 「地域がキャンパス」活動  
(眞砂ゼミ)  
放課後児童クラブのレクリエーション

▶学生による「凧作り」企画は失敗したのか？



## 4. A大学体験型学習「地域がキャンパス」活動例



レジ袋を使った「凧づくり」体験

今どきの子ども 時間があればゲームに夢中 個人プレー

100円均一ショップでもっとクオリティの高い凧が買えるのでは？

日頃から斜に構えて何にも乗り気でない子ども

凧作りには全く興味を示さず「面白くない」とそっぽを向かれてしまうのでは？

企画はダメだったのか？学生の取り組み意欲も減退しそう。

それでも、準備を進め何とか当日を迎えた……。

## 4. A大学 体験型学習「地域がキャンパス」活動例

【いつもと違う子どもの様子】

学生が用意した完成版の凧の出番はなし。

最初はうまくできなくてふくれっ面の子も何とか完成までやり遂げた。

出来た子たちから順に、近所の公園に出かけた。

子どもたちの手作り凧は思いのほか、空高く上がった。

子どもたちの笑顔が溢れている。

時間になっても止めようとしないう。ネガティブに見えていた子が・・・

後日談

「あの子たちは時間があると凧あげに行こうというんですよ」職員からのうれしい報告。

〇体験でしか学べない、関わらなければ変わらない、変化した子どもと出会えない。子どもの強みや力を実感した活動であった。そして、学生自身も変容する・・・。

## 5. With コロナ時代の体験型学習のあり方

- 地域活動の実践

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク編(2020)『With コロナ 新しい生活様式で進める地域づくり ～地域共生社会を見据えた地域活動のヒント集～』より紹介

- コロナ禍で行われているBキャンパスでの活動の様子について紹介

- 佛教大学での実習代替授業の様子

## 5. With コロナ時代の体験型学習のあり方 地域活動の実践

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク編(2020)『With コロナ 新しい生活様式で進める地域づくり』より転載

事例1(大分県中津市)手書きのハガキで「気にかけている」ことを伝える

事例2(神奈川県川崎市) 通いの場は休止でもタケノコご飯のおすそ分け 時間差で取りに来てもらう

事例3(愛知県名古屋市)子育て中の「いま」に寄り添い、つながりを続ける オンラインサロン

事例4(宮城県女川町)移動販売同行で百人と会う お客さんのほとんどは高齢者 4時間で住民100人と出会えた!

事例5(兵庫県豊岡市竹野南地区)活動者の見守りとご近所の気かけ合いで安心をつむぐ

竹野南地区には、バス停に共同の引き出しがあり、新聞や各家庭への配布物が届く仕組みがある。取りに来ていない人がいると「新聞が残っているよ」などと声を掛け合う

## 5. With コロナ時代の体験型学習のあり方 地域活動の実践

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク編(2020)『With コロナ 新しい生活様式で進める地域づくり』より転載

事例6(群馬県太田市)アンケートと訪問取材で、住民のつながる工夫を知り、広める

事例7(宮城県多賀城市) LINEビデオ通話で協議体! こんなときだからこそ、やれることをやってみよう

事例8(岩手県紫波町)おそれながらも、楽しくつどう「集まりたい」の思いをかなえる「お茶っこの会」

事例9(沖縄県沖縄市泡瀬) 顔を見てつながることが、安心につながる「ゆんたくの会」

事例10(大阪府東大阪市)食堂は休止でも、弁当で地域のつながりを広げる

事例11(沖縄県北谷町)つながりで元気を生み出す ぷからさの会の休止中も朝の体操と夜の電話で見守り

## 5. With コロナ時代の体験型学習のあり方

### 【コロナ禍でのBキャンパスにおける学生の被災地支援活動】

仮設住宅に暮らす被災者の方々に向けて動画を作成し発信

- ▶ 免疫力アップレシピ
- ▶ クリスマス音楽の演奏
- ▶ 感染予防対策
- ▶ メッセージ



こんな時だからこそ「繋がっていたい!」学生の思いが詰まった動画

## 5. With コロナ時代の体験型学習のあり方

### 【コロナ禍での佛教大学社会福祉学部 実習代替授業の様子】

実習施設に出向いて動画（利用者の公演や活動の様子、利用者や職員へのインタビュー等）を作成し、それを基に、24日分の授業（社会福祉士各領域）授業を構成

コロナ禍の中でも現場と「繋がっていたい!」、「学生と現場を繋ぎたい」という思いがあったからこそ



## 6. まとめと課題

<体験型学習を行うだけでなく体験後にその体験を言語化する試みを伴う>

言語化する2つの意義

①言語化による体験の記録つまり心への固定・定着

②言語化し記述化した結果は、変化と展開が駆動され、原体験にはない新しい体験が言語の上で可能になる。

(橋本「体験の言語化」に期待すること」  
2016:16)

## 6. まとめと課題

「参加する学生は参加の状況に埋め込まれた権力性も含めて、現地のインタラクションを深く掘り下げて考えることが重要となる

ーそもそも誰によって、どのように設定されていたのか。

ー交流だけで二度と戻ってこない学生に対して、利用者はどういう感情をいだくのか？ 等

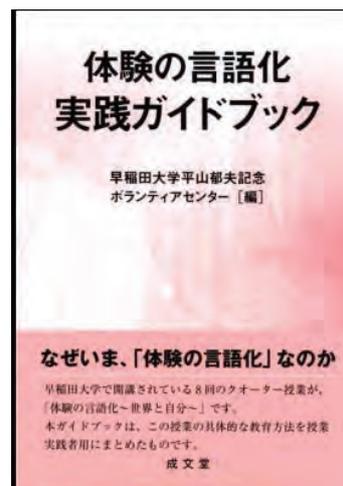
学生がいつ、どこで、どのようなことが起き、自分はどのように関わったのかというその経験の文脈を分析することが大切であり、そのための経験の文脈の可視化と継続的な振り返りのプロセスを組み込むことが重要である」

(村田晶子『大学における多文化体験学習への挑戦』 2018:8)

## 6. まとめと課題

- 経験の言語化の授業(90分×8回)を展開

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編(2018)『体験の言語化実践のガイドブック』成文堂より8回の授業のテーマを転載



参加型・対話型授業の心構えと目標決定

個人の内面のふりかえり

社会の課題を発見するふりかえり

有機的なつながり

受講生による『語りとディスカッション』

## 6. まとめと課題

【経験の言語化や継続的な振り返りを行っていく際の課題】

- ボランティア活動など授業化や単位化をしていない**学生の自発的な体験型学習では、教員の立ち位置によって体験後の振り返りの活動が制限されていくのではないか。**
- **教員がどこまでどの立場でどのようにかかわっていくのか、大学の組織としての問題とも重なる。**
- 経験の言語化や継続的な振り返りには、**質的研究法による深い分析を行っていくことも重要である。**例) プロセスの分析 M-GTA等



## 6. まとめと課題

- このWith コロナの時代にあって、いろいろな繋がりが制限されるなかで、学生の学習意欲を引き出す初年次からの体験的学びと体験の言語化の活動を続けていくことが求められる。
- 学生と教職員がともに模索や工夫をしながら人と人との繋がりを切らない活動を続けていくことが重要である。

## 文献一覧①

- 半澤礼之(2007a)「大学生における『学業に対するリアリティショック』尺度の作成」『キャリア教育研究』25:15-24
- 半澤礼之(2007b)「大学生の学業に対するリアリティショックと学業適応(1)」『日本教育心理学会第49回大会発表論文集』490
- 尾崎仁美・松島るみ(2006)「大学生の授業意欲の変化とその要因」『プシュケー』5:63-74
- 尾崎仁美・松島るみ(2012)「大学生における学習意欲の変化とその関連要因」『プシュケー』11:29-40
- 溝上慎一(2009)「『大学生生活の過ごし方』から見た学生の学びと成長の検討—正課・正課外のバランスのとれた活動が高い成長を示す—」『京都大学高等教育研究』15:107-118
- 尾崎仁美・松島るみ(2009)「大学授業観と大学適応観、学習意欲、学業的自己疎外感との関連」『京都ノートルダム女子大学研究紀要』39:1-16
- 谷村英洋(2010)「大学生の学習時間と学習成果」『大学経営政策研究/東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース編』2010年度:71-84

## 文献一覧②

- 村田晶子編著(2018)『大学における多文化体験学習への挑戦』ナカニシヤ出版
- 兵藤智佳(2019)「WAVOCとは・ワボプロとは」早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編『ボランティアで学生は変わるのか』ナカニシヤ出版
- 佛教大学福祉教育開発センター編(2019)「ともいき2018事業報告書」佛教大学福祉教育開発センター発行。福祉教育開発センターは、社会福祉学部長がセンター長を兼任し、実習指導講師、巡回指導講師7名で構成されている。
- 「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク編(2020)『With コロナ 新しい生活様式で進める地域づくり ～地域共生社会を見据えた地域活動のヒント集』特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター
- 橋本周司(2016)「『体験の言語化』に期待すること」早稲田大学平山記念ボランティアセンター編『体験の言語化』成文堂
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編(2018)『体験の言語化 実践ガイドブック』成文堂

ご清聴  
ありがとうございました



# ソーシャルワーク理論と技術を用いた 学生支援・教育指導の葛藤

—教職員の共通理解の重要性と困難性—

九州ルーテル学院大学 永野典詞

## 報告の流れ

- 報告の概要
- 新型コロナウイルス感染症による対応など
- 私の学生への対応について（学生支援の行動指針・根拠）
- 大学等の取り組みについて
- 所属大学の学生支援の取り組みの例
- 学生支援のあり方と葛藤、共通理解の困難性
- まとめ

## 報告の概要

大学教育において、学生支援・教育指導の実践

①ソーシャルワーク理論と技術を用い学生支援・教育指導とその実践における葛藤

②教職員の共通理解の重要性

## 新型コロナウイルス感染症による対応

- 学生のモチベーションを維持することに留意してきた
  - ▶モチベーションの維持には普段の教員と学生の関わりが重要
  - ▶問題や課題がある場合は、初期対応としての対面による面接や具体的な支援が必要



平常時以上に細やかな対応が必要

ここでも問題にぶつかる！！

## 私の学生への対応について①（学生支援の行動指針・根拠）

### 「バイスティックの7原則」（ケースワークの原則）

学生を1人の個別性のある人間と捉え、「学生の最善の利益」のための支援とはいかなるものかを考えてきた

学生、保護者、教職員の信頼関係を育むための適切な関わりと、それに伴う良好な人間関係の構築に留意する

**ここでも問題にぶつかる！！その理由**



**学生の選択・決定をどこまで尊重するか？**

## 私の学生への対応について②（課題）

1. ソーシャルワークの専門家だからできるのか、という問題
2. 教職員が共通の理念と方針を理解して協働して支援にあたることができるのか
3. 学生支援・教育指導のあり方に対する教職員の共通理解は深遠  
▶教職員の学生支援・教育指導に対する思いはそれぞれに意味深いし、差異があるのではないかと思う



**また、ここでも問題にぶつかる！！**

## 私の学生への対応について③（課題）

### 1. 学生の個別性の理解と対応

- ▶モチベーションが高い学生（高い目的意識など）、低い学生（不本意入学など）では対応が違う
- ▶性格や性質といった部分でも対応に留意が必要
- ▶みんな一緒に頑張ろうはきついこともある



また、ここでも問題にぶつかる！！

## 他大学等の取り組みについて（参考）

- 学生支援の取組全般については、『現状よりも強化・充実させたい』大学全体では9割以上、短期大学・高等専門学校全体では8割以上
- 「大学全体では『学生生活における支障・困難の除去』（95.9%）（独立行政法人日本学生支援機構「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（平成29年度）結果報告」）
- 2020年4月から10月の中途退学者の状況は「学生数に占める4月～10月の中退者数の割合は、令和元年度に比べて令和2年度の方がやや少ない。」文部科学省高等教育局総合教育政策局「新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等に対する追加を含む経済的な支援及び学びの継続への取組に関する留意点について（依頼）『新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援状況等に関する調査（令和2年10月末時点）』」。

個別問題への取り組みは難しいと感じている

## 所属大学の学生支援の取り組みの例

### きめ細やかな学生支援（大学の理念）

- 保護者懇談会（2年生対象）
- 学生個別面談
- クラスアドバイザー制度
- 学生支援懇談会
- Moodleによる学生への連絡→課題は学生がメールを見ない
- LINEによる学生への連絡（非公式）→課題あり

## 学生支援のあり方と葛藤、共通理解の困難性 1-1ソーシャルワークの知識と技術の援用

- ケースワークの原則である「バイステティックの7原則」を踏まえた学生支援の有効性
  1. 「個別性の理解」その特性（性格、性質、物の捉え方など）を活かした関わりを意識
  2. 「受容（と共感）」常識と照らして疑問に思う場合も、まずは受け止める

## 学生支援のあり方と葛藤、共通理解の困難性 1-2 ソーシャルワークの知識と技術の援用

3. 「非審判的態度」 裁かれたり非難されたりすると、自分の保身（守るため）に嘘や虚栄を張ることがある

4. 「自己決定」 最終的な選択と決定は学生が行う！ 難しさと失敗も体験している

- これらの知識と技術を用いた学生との関わりは **良好な人間関係** を構築するためにも有益であると考えている

## 学生支援のあり方と葛藤、共通理解の困難性 2-1 職員の共通理解

- ソーシャルワークの理解と捉え方の問題

1. 「ダブルバインドの対応」 教員間による関わり方、伝え方の違い（甘い、厳しい指導が必要など） →感情だけに依拠しない根拠に基づく対応
2. 「学生の捉え方の違い」 学生をどのように捉えるか。例えば「いつも寝ているダメな学生」「寝ているけど毎回授業には参加している、学生なりに頑張っている」 →肯定的理解が重要か！学生との関係づくりの意味づけとなる
3. 「学生支援と教育指導の考え方」 大学の理念と方針などの共通理解 →組織的な対応の重要性

## まとめ

- 100%の答えが明確でないなかで、教職員の価値観や心情（感情：自分への戒め）で対応することの危険性にも目を向ける必要がある
- 学生支援・教育指導では、教職員が感情的にならず、ある一定の知識と技術を持って対応することが必要であると考え→その1つの方法論としてソーシャルワークの知識と技術を提案したい
- 学生が夢と希望を持って入学（不本意入学の場合もあるが）し高いモチベーションを有しているなかで、モチベーションを削がない関わりも重要

## 参考文献

- 独立行政法人日本学生支援機構「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（平成29年度）結果報告」。  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/torikumi\\_chosa/\\_icsFiles/afieldfile/2018/11/29/1\\_kikka.pdf](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/torikumi_chosa/_icsFiles/afieldfile/2018/11/29/1_kikka.pdf)
- 独立行政法人日本学生支援機構「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（平成29年度）結果報告」。  
[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/torikumi\\_chosa/\\_icsFiles/afieldfile/2018/11/29/1\\_kikka.pdf](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/torikumi_chosa/_icsFiles/afieldfile/2018/11/29/1_kikka.pdf)
- 文部科学省「学生の中途退学や休学等の状況について」（平成26年9月29日）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/26/10/\\_icsFiles/afieldfile/2014/10/08/1352425\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/_icsFiles/afieldfile/2014/10/08/1352425_01.pdf)
- 文部科学省高等教育局総合教育政策局「新型型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等に対する追加を含む経済的な支援及び学びの継続への取組に関する留意点について（依頼）」。  
[https://www.mext.go.jp/content/20201218-mxt\\_kouhou01-000004520\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201218-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf)



# 宝塚医療大学

TAKARAZUKA UNIVERSITY of MEDICAL and HEALTH CARE



宝塚医療大学 「建学の精神」

徳義の涵養と人間性尊厳の実践を  
理念とし、医療人たる社会的責務  
を自覚せしめ、国際社会に伍して  
恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を  
育成する。

私立大学界：生き残り（勝ち残り）をかけた選別の時代

- 学校間は二極化：
  - 生き残り（勝ち）組
  - 廃校または弱小（負け）組
- 学校経営
  - 教員
  - 事務職員
 } 総力戦
- 経営革新の着眼点：
  - 資源の有効活用
  - コスト効率
- 旧態依然とした不活性な体質を変革できない学校：存亡の危機

### 学校組織の現状と問題点

- 組織とは事業活動を具現する支持体である。
- 学校組織の場合、次のような弊害が存在するため、組織として機能するよう管理することは、実際には困難な課題である。

#### 《組織の弊害の三大要因》

- 学校における組織の弊害の一つ目：  
学校教育は需要と供給が同時的であり、  
貯蔵が不可能である結果として携わる人間の属人的  
特性や労働力に左右される。

## 学校組織の現状と問題点

### 《組織の弊害の三大要因》

#### ●二つ目：

労働生産性の評価等にも用いる学生数や事業収益は、貨幣価値に関連付けるための擬制指標であり、学校本来の事業指標での成果測定が困難なため投入と創出の曖昧さがある。

## 学校組織の現状と問題点

### 《組織の弊害の三大要因》

#### ●三つ目：

組織構造上、事務系にみられる組織的権限と教員系にみられる組織的権限そして理事会にみられる理事組織の権限や理事長・副理事長事の指示に代表される権限などが混在し、命令系統が交錯することがあるため、良好な組織運営が阻害されることがある。

このような面から、学校の組織、人事の運営は、近代的機能組織の管理手法から最も隔離された分野の一つとも言えよう。

その結果、「役割意識・成果認識の浸透の欠如」

## 学校組織の現状と問題点

### 《組織の弊害の三大要因》

以上のような面から、学校の組織、人事の運営は、近代的機能組織の管理手法から最も隔離された分野の一つとも言えよう。

- その結果、  
「役割意識・成果認識の浸透の欠如」
- 「やる気のある優秀な人材への仕事量の負荷の偏り」
- 「日々の業務に埋没」  
といった状況に陥っている。

## 学校組織の現状と問題点

### 《校内活性化の考え方》

- これらの組織・人事制度の革新には、  
「成果責任の明確化」  
「自己責任の原則の確立」に根差した自立的・自主的な行動  
「成果や能力の適正評価」によりさまざまな報酬を実現する。  
「組織・人事・処遇体系」のシステムを構築することが不可欠となる。
- 公平な処遇と対等な人間関係が確立され、職員が仕事に満足を感じることでできる条件が満たされてはじめて組織は活力を漲らせる。
- 概論的だが校内活性化を図るには、  
「提供される労働力の質と量の管理」  
「提供される労働力の価値の管理」  
「労働力の提供者の管理」が基本となる。

## 学校組織の現状と問題点

### 《校内活性化の考え方》

- 各論的には、
  - 「理念やビジョンによる方針の明示」
  - 「大局的で迅速な意思決定システム」
  - 「フォーマルなコミュニケーションを前提とした組織の統合化」「権限委譲など適切な管理姿勢」
  - 「成果責任を明確にした業績志向性」
  - 「創造性を尊重する人間関係」
  - 「研修・教育制度による人材育成」
  - 「画一的年功主義でない公正な人事考課による処遇」
 といったことが課題になる。
- これらの課題を今まで避けてきた学校ほど、変革のために支払うコストも大きくなることだろう。
- 意識改革どころか、意識不明の組織では、意識の覚醒から始めなければならないことを肝に銘じて待たなしに取り組まなければならない。

## 【学校の経営・運営革新】

### 《加速化する革新への対応》

1. 環境変化と学校経営へのインパクト  
ポイント：外部環境の構造的変化を鋭く見抜く。
2. 経営革新の基本スキームと展開着眼  
ポイント：革新手法の原理原則を忠実に貫徹する。
3. 総戦力に向けた経営組織と階層的役割  
ポイント：上位層・中間層・下位層が責務を全うする。
4. 機能的組織の確立と成果責任の明確化  
ポイント：成果責任を認識した組織文化を醸成する。
5. 経営革新活動の具体的プロセスと課題  
ポイント：活動の手順化と問題の構造化を図る。

### 『改善の進め方①』

改善を進めるための基本的な手順は、下図に示すように、七つのステップを踏んで行う。

すなわち、

第1ステップ：問題点を把握する。

第2ステップ：改善目標を設定する。

第3ステップ：要因を解析する。

第4ステップ：改善策を検討する。

第5ステップ：改善計画を実施する。

第6ステップ：改善成果を評価する。

改善成果が不満足の場合は、第4さらには第3のステップにさかのぼって再検討する。

所期の成果が確認できたら、第7ステップ：歯止めを行い、管理の定着をはかる。(次へ続く)

### 『改善の進め方②』

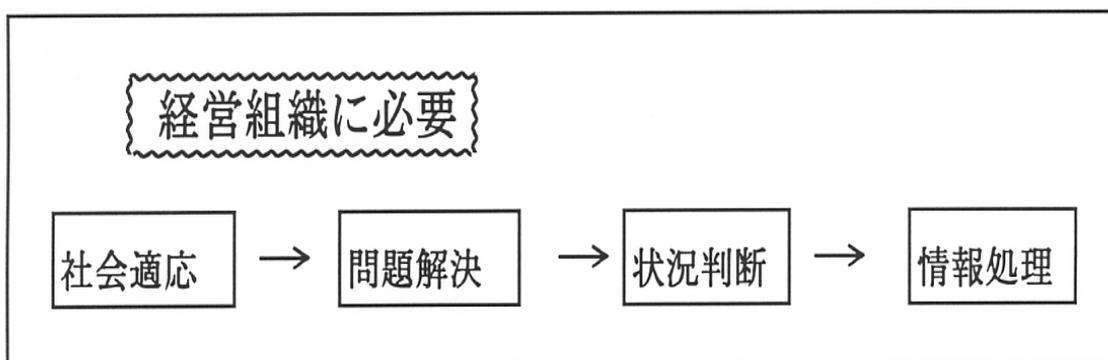
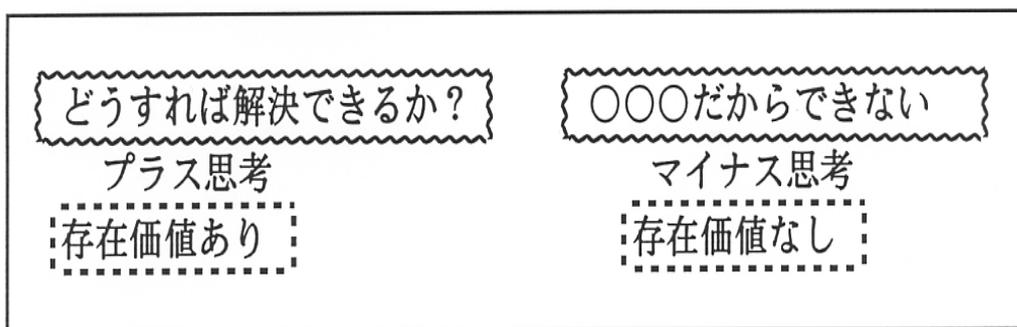
#### 《QCDPSM》

- ①教員・学生の質 (Quality:クオリティ)が問題か？
- ②学納金の価格(Cost:コスト)が問題か？
- ③教育期間(Delivery:デリバリー)が問題か？
- ④教育の生産性(Productivity:プロダクティビティ)が問題か？
- ⑤安全(Safety:セイフティ)が問題か？
- ⑥志気(Morale:モラル)が問題か？
- ⑦教育材料(Materia1:マテリアル)に問題はないか？
- ⑧教育機器(Machine:マシン)に問題はないか？
- ⑨教員・事務職員(Man:マン)に問題はないか？
- ⑩方法(Method:メソッド)に問題はないか？

#### 《3ム》

- ①ムダ(無駄)はないか？
- ②ムラ(むら)はないか？
- ③ムリ(無理)はないか？

## 優れた組織



## 『これからの対応ポイント』

## 《納得と感動を与えられる学校づくり》

- ①安全性をワンランクアップさせる。
- ②信頼性をワンランクアップさせる。
- ③快適さをワンランクアップさせる。
- ④優しさをワンランクアップさせる。
- ⑤清潔さをワンランクアップさせる。
- ⑥マナーをワンランクアップさせる。
- ⑦ゆとりをワンランクアップさせる。
- ⑧利便性をワンランクアップさせる。
- ⑨イメージをワンランクアップさせる。
- ⑩学習をワンランクアップさせる。
- ⑪愛校精神をワンランクアップさせる。